

絵画の部(小学校)



☆最優秀賞☆

隠岐の島町立都万小学校 3年 安部 花菜 (あべ はな) さん

【講評】

いざ、災害が起きた際の状況を思い浮かべ、子どもらしい感性で、丁寧な描写と色づかい、力強い呼びかけの言葉で表現している。真剣な表情で懸命に行動している子どもたちの様子から、早期に避難行動を起こすとともに、周りと助け合うことの大切さが伝わってくる作品である。

「私の経験から考えたこと」

私は、保育園のころと小学生の時に「大雨」と「土砂崩れ」に遭い、避難した経験があります。

皆さんも一回や二回はあると思います。

私はその夜いつものように家で寝ていました。しかし急に母に大声で起こされ「避難するよ」と言われました。突然のことでした。外は大雨が降っていて、少し怖くなりました。

避難所に着いたらたくさんの人が集まっていたみんな困った顔をしていました。

すると、外にいた人が「木が倒れた」と言いました。急いで私も窓から外を見ました。その時までは、大雨や土砂崩れが起きて自分たちには関係がないと思っていました。でも、窓から外を見ると、道路の上に木が倒れていて、車が通れなくなっていました。「こんなんでも木が倒れるんだ」という驚きと恐怖がわいてきました。大人の人たちは、大雨が降っている中でも木を移動させようと頑張っていました。でも、私はただ見ていることしかできませんでした。

避難所となった場所は、私の家の近くの集会所です。その集会所には、テレビがあります。避難したとき、テレビがついていました。テレビのニュースでアナウンサーが「避難してください。」と何回も何回も焦った声で言っていました。それと同時に、大雨の映像や土砂崩れの映像が流れました。それを見ていた避難所にいた人は、みんな不安そうな顔をしていました。私は今もそれを見ていた人たちの顔を思い出します。避難は急なことだったので、私は何も持ってきていませんでした。幼い私にとって、避難所での生活は何もすることがないのでとても暇に感じました。

やがて、雨がだんだん止んできて、避難所に集まっていた人たちも、みんな自分の家に帰ることができたのです。

そんな体験の後、私は中学生になり、防災について考える機会がありました。私たちの学年で、総合的な学習の時間で地元のいろいろな災害について調べたのです。

フィールドワークをして、バスで被害にあったいろいろな場所を実際に見学して巡りました。その中でも一番驚いたのは、私の家のすぐ隣、自分の家の窓から見える場所で土砂崩れが起きたことを知ったときです。当時の写真を見ると、山の上から下まで田が土砂でつぶれていて、道路に流れ出る形になっていました。私が昔、避難した時に見た被害より、その写真の方が面積も迫力も大きかったと思います。「昔、あの時よりも、もっと大きな被害を受けていた事があったんだな」と思いました。

その写真の時の土砂被害は、今一緒に暮らしている私の祖父と祖母も実際に体験していると聞きました。

また、地元の大人の方々から防災についてのお話を聞いたり一緒に防災備蓄品の組み立て訓練をしたりもしました。

その授業の中で「自助」「共助」「公助」という言葉を教えてもらいました。特に「共助」は、あの避難所で過ごしたときのように地域の人の間で自分達にできる助け合いをすることです。

あの時は幼くて何もできなかった私ですが、今はいざというとき何かができるはずです。

実は、私はとても人見知りで恥ずかしがり屋です。ですから普段から母に「これをあの人に渡してきて」と言われても、すぐに「いやだ」や「行きたくない」などと言ってしまいます。でも今後は、総合的な学習の時間に学んだことや、これまでの経験を生かして、「恥ずかしがらず、自分から積極的に動きたい」、そう思うようになりたいました。

これからも私は、土砂災害から自分や家族の身を守ること、地域の人たちと助け合うこと、などを大切にしたいと思います。

昔起きたこと、これから起きることについてを学び、忘れず生きていきたいと思います。

☆最優秀賞☆

浜田市立弥栄中学校 2年 三浦 翠（みうら すい）さん

【講評】

幼い頃の自分の体験と関連付けながら、これから先の自らの生き方について強い思いが綴られている。学校で行ったフィールドワークをはじめとした調べ学習によって防災に関する学びを深め、自分や家族の身を守り、地域で助け合うことの大切さを改めて認識するとともに、自分から積極的に動いていこうとする姿勢がうかがえる。